

平成23年度第4回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要

日 時：平成23年11月23日（月）

午前9時30分～午後4時20分

場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、阿部副委員長、成田委員、齋藤（秀）委員、清藤委員、
齋藤（き）委員、小山委員、前田委員、吉本委員、東谷委員、長内委員、
工藤委員、田中委員

※2名欠席

市民生活課 佐々木課長、北岡参事、堀川総括主査、葛西主事

福祉総務課（公開ヒアリング・審査会：事業番号4） 平尾課長、秋田係長

企画課（その他：自主防災組織推進への活用） 高木課長、米澤主査

1 公開ヒアリング・審査会（午前9時30分～午後2時35分）

＜ヒアリング・審査方法の変更＞

審査内容を申請団体に聴いていただくために、1事業ごとに公開ヒアリング・審査を実施。

1. ヒアリング（7分以内で事業内容の説明。その後8分程度で質疑応答。）
2. 審査（30分程度）

《審査内容》

●1：次世代ねふた笛伝承プロジェクト／津軽横笛ギネス実行委員会

【主な意見】

- ・塩ビ管で練習をし、子供たちが横笛に興味を持つということは、弘前の伝統を受け継いでいくことで、すごく有効な手段ではないか。
- ・少子化の中、こういった事業を積極的に行っていないと、子供たちを祭りに巻き込むということが難しくなっていく。
- ・ねふたは、大人でも子供でも役割がないと参加しにくいものである。笛が吹けるということで、ねふた祭りにも参加しやすくなる。
- ・子供たちの育成に力を入れるということは、制度の目的に合うものである。

【採択結果】

賛成の委員13名起立（全員）により採択（申請額どおり）。

●2：産業遺産的価値の高い蒸気機関車公開開始及び青森県最古の駅舎・弘南鉄道新里駅リニューアルオープンセレモニー事業／特定非営利活動法人五能線活性化倶楽部

【主な意見】

- ・誘客の一つのきっかけになる事業であり、また地域の価値を再認識できる事業である。
- ・周辺町会の地域活性化、弘南鉄道の活性化につながる事業である。
- ・観光スポット、古いものを残すということでは異論はないが、まちづくりという観点で考えると、地域との関わりが見えてこないのが残念である。

- ・今後市民をいかに巻き込んでいくかが課題である。

【採択結果】

賛成の委員12名起立により採択（申請額どおり）。

●3：ベジスタ in ひろさき／ベジスタ in ひろさき実行委員会

【主な意見】

- ・弘前には良い資源がたくさんあるが、それがPRされていない。PR不足である。多様な形で弘前を発信するという意味でいい事業である。
- ・食育に関しては賛成である。また、地元の農産物をPRしていくことに関しては、いろいろな農業団体が様々な事業を展開していることから、他団体との連携が今後の課題である。

【採択結果】

賛成の委員13名起立（全員）により採択（申請額どおり）。

●4：弘前市民のための専門職による権利擁護ネットワーク事業／一般社団法人権利擁護あおい森ねっと

【主な意見】

- ・専門職によるネットワークづくりは、非常に難しいことである。その難しいところを率先してやるということは大変なことである。
- ・市民後見人の必要性は増しているが、絶対的に市民後見人になる人が少ない。今後ますます必要性が増していくものであり、行政だけでは間に合わない状況である。行政と民間が車輪の両輪のようにうまく機能していければいいと思う。

【採択結果】

賛成の委員13名起立（全員）により採択（申請額どおり）。

●5：パフォーマンスアートふれあい事業2011～世界のパフォーマンスアートを楽しむ3日間～
／FUNKY STADIUM

【主な意見】

- ・若い方が弘前を活性化させ、弘前をもっとアピールしたいという想いはとても大事である。
- ・若い人にアンケートをとると、弘前には何もないという回答が多い。そういう人たちが、自分達で活動し盛り上がろうとしているのは結構なことである。
- ・ダンスを見るだけではなく、ワークショップを行い、市民に参加いただくということは有効である。

【採択結果】

賛成の委員13名起立（全員）により採択（申請額どおり）。

●6：弘前アダプテッド・スポーツフェスティバル／5-Between

【主な意見】

- ・大学生のグループによる申請であり、学生の方が主体的にやるということがとても魅力的である。
- ・団体の顧問である講師の方を含め、大人がうまくサポートし、また学生達のネットワークが広がっていけば素敵である。
- ・障がい者スポーツというのは、まだ普及していない状況である。若い人たちがこういう形できつ

かけを作ってくれるのは大変良いことである。

- ・健常者と楽しんで地域とのつながりを持たせたいという事業であり、ぜひ若い力でこれを継続させ、障がい者の方たちが多く参加できるような方法をとって欲しい。

【採択結果】

賛成の委員13名起立（全員）により採択（申請額どおり）。

【3次募集事業の審査結果（6事業）】

採択とする事業 6事業

2 その他（午後2時45分～午後4時20分）

（1）意見交換会（フォローアップ）の実施結果について

【意見交換会の概要】

●実施団体：12団体

●実施期間：10月11日（火）～14日（金）

10月11日（火）：音楽ボランティア協会「赤とんぼ」、槌子町会、さくらサロン

10月12日（水）：前川國男の建物を大切に作る会、動こう津軽！、駒越町会、
津維人の会、弘前ラーニングボックス研究会

10月13日（木）：弘前市民の森の会、弘前文学学校

10月14日（金）：「もったいない」つがるの会、福村町会

●団体からの主な意見

【制度全般について】

- ・制度の枠（基準）を広げていくことも検討して欲しい。
- ・この制度により弘前が1ランク上のまちになっていければいい。その起爆剤となって欲しい。
- ・限りある財源であるので、1団体1事業とすべき。
- ・6,000万円を町会の数で割って出した方がよいのではないかな。このままではNPOなどが満額受けれる制度になっていくのではないかな。

【ヒアリングについて】

- ・限られた時間の中で理解していただくことが難しい。今回の意見交換会のような形であればもっと事業内容を理解してもらえたのではないかな。

【審査について】

- ・審査方法に点数式を取り入れてはどうか。客観的なものさしを作って、その上で議論した方がよい。それがないと発言の大きい人に傾いていく。
- ・審査委員15人が反対するのであれば仕方がないが、一人でも賛成するのであれば採択した方がよいのではないかな。
- ・審査では、悪い理由を探しているように感じる。少しでも成果があり、市民が動こうとしていることに対しては応援するべきである。

- ・本当に必要な事業には、枠外でもいいので助成して欲しい。
- ・事業はそれぞれ違うと思うので、ケースバイケースで対応して欲しい。
- ・審査基準として、弘前のまちづくりで過去にどういう貢献をしてきたのかを入れて欲しい。
- ・審査基準として、やってきた実績・志の高さ（私利私欲でないところで頑張っている）ということを対象として欲しい。
- ・審査会での議論を聞いていたが、客観的にどう思われているかを知り、すごく意味のあったことだと感じた。
- ・公開で審査会をしていることを説明して欲しかった。知っていれば参加した。

【対象経費】

- ・地域活性化を目指すイベントであれば、地域住民に供する飲食は、対象経費としてもよいのではないかな。
- ・納涼祭では子供の参加を募るため、ニジマスのつかみ取りを実施しているが、ニジマスくらいは補助対象にしてもいいのではないかな。また、参加賞も対象経費として欲しい。

【意見交換会を実施しての委員からの感想等】

- ・今回1年目ということから、まだまだ制度内容が市民の皆さんに理解されていないということを感じる。今後事業成果発表会を開催するなど、直接活用事例を通しながら理解していただくことも大事である。
- ・審査方法について、公平性の点からも点数式を取り入れた方がよいのではないかな。
- ・不採択となった場合には、きちんと説明することが必要である。
- ・私達も市民に見られているということ意識しながら審査に臨んでいる。お互い委員の中でも賛成・反対意見が分かれるのも、様々な意見を持った委員が集まったからである。
- ・意見交換を実施し、どういう基準で審査をしたのか、次はこういう形で申請したらどうかというお話しができ有意義であった。
- ・市民の認知度はまだまだ低いと感じている。もう少し市民の皆さんに伝わるような広報の仕方がないかなと感じる。
- ・5分という事業説明ではなかなか伝えきれないという感じがする。パワーポイントを使ってやるのがいいのかな、例えば動画を使って活動状況を伝えるとか、実技・実演などの方法もあるのかなと感じている。
- ・この仕組みは2年3年と続けていき、少しずつ進歩していく仕組みではないかなと感じている。
- ・時間的な制約はあるが、今回の進め方のように1事業ごとにヒアリング・審査というやり方がいいと思う。
- ・審査の基準について、アバウトな部分もあるので、今後どこまで細かく審査基準を定めていくのか、ということがこれからの課題である。

(2) 自主防災組織推進への活用について

【企画課説明】

- ・弘前市の自主防災組織率は8%と非常に低い状況にあり、1%システムを使って組織率を高めていくことを検討している。
- ・市の取り組みとしては、災害対応用の資機材購入等の補助を行いながら、自主防災組織の結成を働きかけている。今年度は、岩木地区の常盤野・百沢、相馬地区の沢田・藍内、旧弘前地区では槌子町会が自主防災組織を立ち上げている。
- ・また、県と協力し、防災まちづくり推進事業として、町会長を対象とした研修会を実施している。
- ・自主防災組織は、地域に根ざした市民の安全にかかわる活動を行う団体であり、市民参加型のまちづくりの原点ともいえる組織であることから、その結成や活動に対する部分で、1%システムを活用していただくことも考えている。今後、原案をつくり、委員の皆さんに相談したいと考えている。

【主な意見】

- ・弘前の自主防災組織率が低いという背景を、委員の皆さんによく理解していただく必要がある。弘前には、各町会に消防屯所があり、条例定数に基づき消防団員が配置されている。弘前はたった8%ということだが、他の地域とは違う。
- ・自主防災組織を結成することは賛成であるが、市民が自分達で企画し・実施する事業に助成をするという1%システムの趣旨とは、話が少し違うような感じがする。
- ・地域が自分たちでプレゼンをして、この仕組みで上がってくるものと、行政が指導をして自主防災を作れと言って動くのでは、若干ニュアンスが違う。
- ・町会の防災組織については、これまでも町会連合会の総会の中で議論にはなっているが、支援等がなかったため結成には至っていない。このような形で助成があるとする、多くの町会が手を挙げるのではないかと。

【今後の予定】

- ・今年度の課題等の整理を行いながら、来年度の制度内容・審査方法などについて検討を行いたいと考えている。自主防災組織の件についても、情報交換をしながら検討していきたい。